

第六号



安心とつるおのの平野「三の手」をめぐって

防災まちづくり瓦版

発行ノ寺言問の防災まちづくり者をわい合

昭和61年7月1日

計画をつくる
 私達住民の手でつくる
 私達住民のためにつくる
 まちの将来設計のため
 生まれ来る子供のため
 来たるべき地震に備えて
 計画をつくる
 わいわい会は、今年、
 防災まちづくり計画案を
 皆さんの知恵を集めて
 立案していきま

防災まちづくり計画、立案へ

私達わいわい会は、来年の初めまでに、この一寺言問地区の防災まちづくり計画を立案していきます。

一 寺言問地区（東向島一、三、向島五、堤通一）は、下町の風情を残すまち、歴史を感じさせるまちですが、地震や火災などの災害の危険を抱えるまちでもあります。このまちを安心とうるおいのまちにしたいというのは、私達住民の共通の願いでしょう。

計画が必ずです。私達のまちの将来像を描くこと、その将来像に向けて、何をどのようにしてゆくかという方針を示すこと、その方針を具体化するための事業（例えば、墨堤の格復活、防災三二広場の設置、防災活動道路の整備など）を提案すること、が私達が立案する計画です。

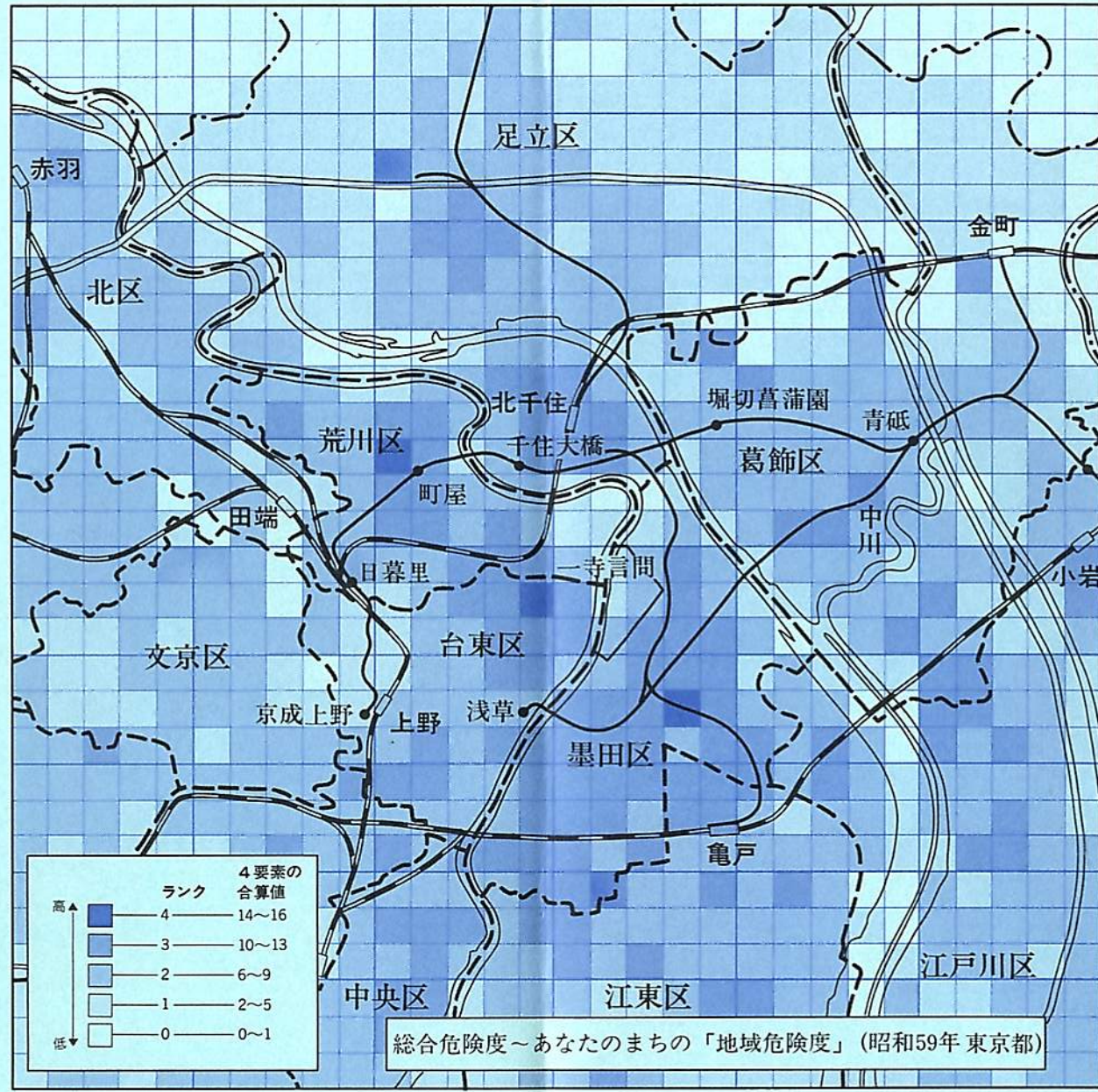
計画づくりの方法としては、まずわいわい会が皆さんの意向をくみとりながら素案をつくり、それを皆さんとよく議論しながらまとめていきたいと思っております。

私達は、この計画を単なる絵に終わらせたくはない。是非具体化したいと考えています。しかし、それは言葉で言うほど簡単ではありません。皆さんの創意と熱意を集めないと実現しないでしょう。

私達は人のつながりを大切にしながら、まちづくりをすすめていきたいと思っております。皆さんの計画づくりへの積極的な参加を期待しております。



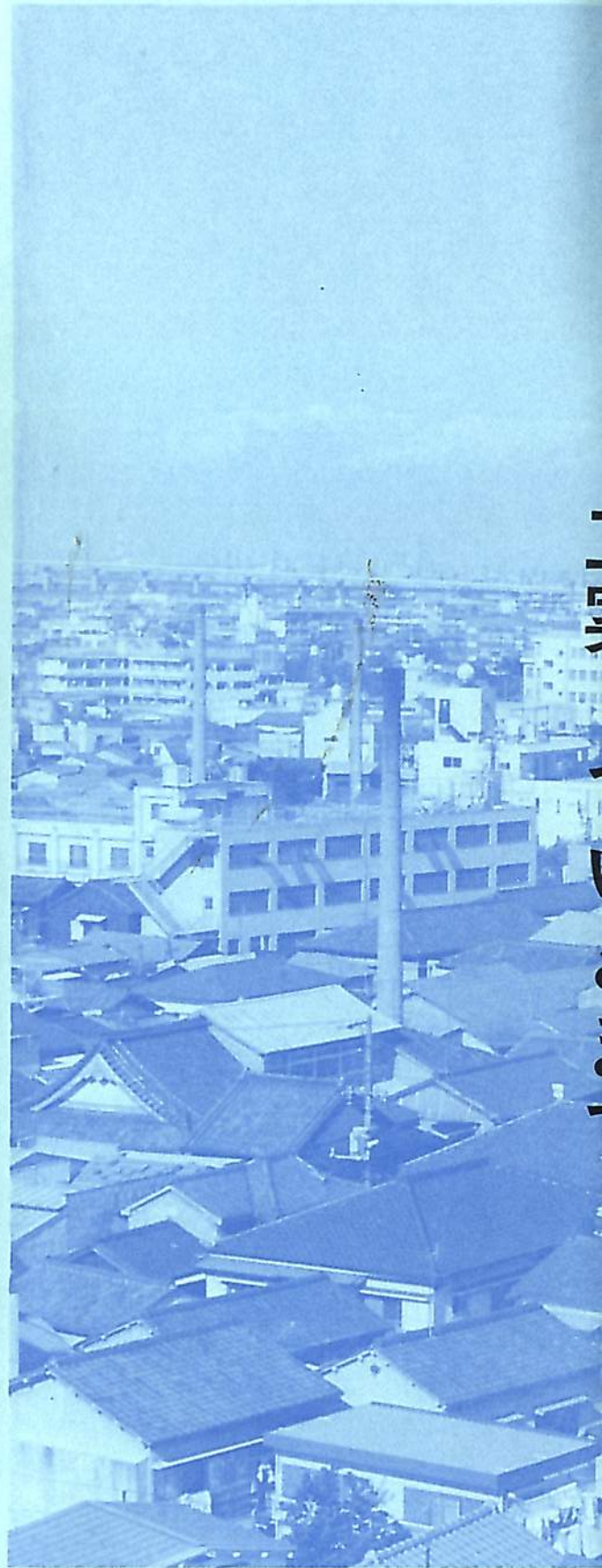
わいわい会から、メッセージ



地震に関する地域危険度。これは関東大地震級の地震を想定し、危険度を①建物危険度②人的危険度③火災危険度④避難危険度、という四つの側面からとらえ、五段階で総合評価したもの。縦・横500mの網目(メッシュ)に区切り、単位で比較している。

一寺言問地区は、建物危険度(地震動によって建物が壊れたり傾いたりする危険性)はかなり高いが、四つの危険度を合わせた総合危険度は、周囲に比べて低くなっている。しかしこれはあくまでも比較であって、被害の規模を予測したものではない。事前の対策や住民の心構えによって被害も変わってくる。これを見て、周囲より安全だと安心せず、より安全なまちに向けて、防災対策をすすめよう。

総合危険度をみると、一寺言問地区の地震に関する危険性は低いようだが・・・



店頭で配った瓦版は大変人気
「ゴミ箱に捨てた一枚もなし」



人気といえは、わいわい会ネ
ーム入りの黄色い風船三十円



わいわい会の半纏を着て、風
船の製作に、販売にと大忙し



何はともあれ、わいわい会の
ことは世間に知らせてきました



YYNEWSYYNEWSYYNEWSYYNEWSYYNEWSYYNEWSYYNEWS

縁日には魅力を感じながら「ヤンブ」を楽しんで

毎月四のつく日に開かれ
る子育地蔵の縁日市。地蔵
坂通りが歩行者天国になり、
露店が立ち並ぶほか、商店
街もこの日には安売りをす
るためか、大勢の人が出る。
いったいどんな人が縁日
に来ているのだろうか。昨
年の十一月におこなわれた
街頭調査によると、ほとん
どの人がこの一寺言問とそ

の周辺の住民で、遠くても
八広、押上とい、た徒歩圏
約四割の人が子育地蔵のお
参りを目的に来ている。お
年寄りとお子供ばかりかと思
いきや、三十から四十才が
意外に多い(五十三%)。もち
ろん子連れの家連れ。で
も二十台のヤンブも一割。
その三人に一人が子育地蔵
のお参りが目的だそう。

地蔵坂灯画会が出す万灯
が名物になって、参拝客が増
えているというけれど、ヤ
ンブに縁日市の魅力は何か
と聞くと「特になし」。それ
でも縁日市がなくなると寂
しいというのが九割もいる。
単にノスタルジックな意
味で縁日市を存続して欲し
いというの、なんとなく
寂しい感じがする。(後)

瓦版提携店紹介 ジュノンとレポート

瓦版提携店というところでは、
要はわいわい会特製の瓦版ケース
をお店の一角にかけて、瓦版を常
時置いていただけるお店のこと。
今回紹介するお店は橋の街通り
の「ジュノン」と世蔵坂通りの「
レポート」と二つの喫茶店。
ジュノンは七月一日、ヌマ
の街から改名。でもスタッフは同
じ。「名前を変えたことを機会に
パンをベースにしたメニューを増
やしたい」とママの鈴木長江さん。



瓦版ケース

外装もヤンブ受けす
る 喫茶「レポート」

「ジュノン」のおしどり夫婦、鈴木さん



「ジュノン」のおしどり夫婦、鈴木さん

レポートは昨年四月にオープン
秋には墨田区商店コンクールで優
良賞を受賞した。「木の感触のイ
ンテリアと手づくりのメニューが
自慢です」とママの加藤裕子さん。
両店とも美人ママさんを中心に
集まったお客さん同士で話はず
む明るくてアットホームな感じが
するお店。この防災まちづくりに
対しても好意的だ。お茶を飲みな
がら、まちづくりの議論でもいかが
ですか。(里)



あなたのお店にも瓦版を置いていただけませんか？

おじさんも、おばさんも困って
いるぞ。いくらサッカー
がおもしろいか

らといて、こども広場(写真)
には約束事があったよな。「近所
の人に迷惑をかけるな」と。窓
ガラスがわれたり、屋根がこわれ
たり、本当に困っているんだぞ！



私がまちづくりスタッフです



東向真子
徳永暢男さん

一寺言問のまちを自転車や巡回
している人。その人は、「トマ
ン」「トクじい」等の愛称で慕わ
れている面倒見の良い下町のお父
さん。
顔や口調からは想像できないが、
とってもお洒落で、「ジュノン」きめ
た服装は、茶色のスリ帽に茶系
色のジャケット・ズボンとなかな
かナウい。また職人気質で、情が
深く、頼まれると断れない性格ら
しい。
先日も、「わいわい会」の世話
人の他、町会役員、青少年委員、
本業と忙しい中、瓦版ケースの見
本やわいわい会の旗を手早く作製
し、そのみごとな出品茶会には驚
いた。
小さな体に豊富なアイデア、
一寺言問への愛着と子供達への愛
情で、このまちを盛り上げてい
てくれる人である。(里)

防災まちづくりの瓦版

第六号 昭和六十年七月二日
わいわい会編集局 製作
山本俊幸 村田里美 若木裕枝 池田英美
墨田区横堀二丁目六番一号
墨田区都市整備部開発推進室
(六十二六)三二五二(六五五)

YYNEWSYYNEWSYYNEWSYYNEWSYYNEWS